「か」で始まる語彙辞典（マイナー）

小説・ラノベの文章表現を
豊かにしよう

はじめに

こちらの語彙辞典は、
小説投稿サイト『小説家になろう』で公開している
【小説・ラノベの書き方講座｜ビジネス思考の創作論】の中の
『小説・ラノベの文章表現を豊かにする 50 音別の語彙辞典』を
ＰＤＦレポート形式に整理したものです。

多くの語を記憶することで、
あなたの文章表現力は
今よりも豊かなものとなります。

『１日５語ずつ』などのように目標を決めて、
今の自分が知らない語を暗記していきましょう。

なお、こちらの語彙辞典は
ノマドクリエイターのショウヘイが
趣味の一環で制作したものです。

商用で販売するつもりは一切ないので、
あなたの友人・知人の作家仲間に
自由に配布してくださって構いません。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

目次

はじめに 2

「か」で始まる語彙辞典（マイナー） 4

おわりに 20

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

「か」で始まる語彙辞典（マイナー）

かい - あお・る【買い煽る】
［動ラ五（四）］
相場を上げるために盛んに買う。「電機株を―・る」

かい - い【魁偉】
［形動］［文］［ナリ］
顔の造作やからだが人並外れて大きく、たくましい感じを与えるさま。また、いかついさま。「容貌(ようぼう)―な人物」

かい - えん【快演】
すばらしい演技や演奏。

かい - かい【恢恢】
［形動タリ］
大きく広く包み入れるさま。ゆったりとしているさま。「―たるローブ」

かい - かん【快漢】
気性のさっぱりした、感じのよい男。快男児。好漢。

かい - かん【怪漢】
怪しい男。怪人物。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かい - きえん【怪気炎】
調子がよすぎて、真実味がないように聞こえる、盛んな意気。「―をあげる」

かい - ぎ【回議】
［名］（スル）
担当者が原案を作り、関係者の間に順次に回して、意見を聞き、または承諾を求めること。「細則については後日―する」「―録」

かい - ぎ【快技】
見ていて気持ちがよい、みごとな技。妙技。美技。「会場の観衆に―を披露する」

かい - ぎゃく【諧謔】
こっけいみのある気のきいた言葉。しゃれや冗談。ユーモア。「―を弄(ろう)する」

かい - こう【開孔】
［名］（スル）
穴を開けること。また、開けた穴。「油圧―機」「―部」

かい - こ・む【掻い込む】
［動マ五（四）］《「かきこむ」の音変化》
① わきの下に抱え込む。
② 液体をすくいとる。「水を―・む」

かい - こん【悔恨】
［名］（スル）
過ちを後悔して残念に思うこと。「―の情」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かい - ご【改悟】
［名］（スル）
自分の犯した悪事や失敗を認めて、それをあらため直すこと。改悛（かいしゅん）。

かい - さい【皆済】
［名］（スル）
① 借りた金を返しおわること。「借金を―する」
② 年貢・税金などを完納すること。

かい - さく【改作】
［名］（スル）
作りかえること。特に、文学作品に修正を加え、新しいものに作りなおすこと。また、その作品。「若いころの脚本を―する」

かい - さく【改削】
［名］（スル）
語句などをあらためたり除いたりして、文章を直すこと。改刪（かいさん）。

かい - さつ【開札】
［名］（スル）
入札した箱を開いて、札（ふだ）を調べること。

かい - しゅん【改悛】
［名］（スル）
犯した悪事や過ちを悔い改め、心を入れ替えること。改心。改悟。悔悛。「改悛の情が―である」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かい - しょう【快翔】
［名］（スル）
気持ちよく空を高く飛ぶこと。空を速く飛んでいくこと。

かい - せん【改選】
［名］（スル）
任期満了のときなどに、議員・役員などを改めて選挙すること。「委員の半数を―する」

かい - ぜん【塊然】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
孤立しているさま。また、不動であるさま。「―と横たわる岩」

かい - そ【改組】
［名］（スル）
組織を改めること。改編。「機構を―する」

かい - そう【回漕】
［名］（スル）
物資などを船で運送すること。「米を江戸へ―する」

かい - そう【改葬】
［名］（スル）
一度葬った遺体や遺骨を、別の所へ葬り直すこと。「郷里の墓に―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かい - たい【拐帯】
［名］（スル）
人から預かった金や品物を持ち逃げすること。「公金を―する」

かい - だ【快打】
［名］（スル）
野球などで、胸のすくようなすばらしい打撃。また、そのような打撃をすること。クリーンヒット。

かい - づめ【掻い詰め】
すきまを作るために、物と物との間に棒などをはさむこと。また、そのもの。

かい - べん【快弁】
聞いていて気持ちのよい話しぶり。また、すらすらと話すこと。

かい - めい【会盟】
［名］（スル）
人々が集まって誓い合うこと。特に、諸侯または各国の使臣などが集まって盟約を結ぶこと。

かい - やく【改訳】
［名］（スル）
前に翻訳した文章に手を入れ、書きなおすこと。また、その文章や本。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かい - ゆ【快癒】
［名］（スル）
病気や傷がすっかり治ること。全快。本復。「けがが―する」

踵（かかと）を踏（ふ）・む
前の人のすぐ後について行く。

かき - まぎらわ・す【書き紛らはす】
［動サ四］
だれの筆跡かわからないように書く。

か - きん【家禽】
家畜として飼育される鳥。鶏・あひる・七面鳥など。⇔野禽（やきん）。

鍵（かぎ）の穴から天を覗（のぞ）く
狭い見識で大きな問題を考えることのたとえ。葦（よし）の髄（ずい）から天井を覗く。

か - ぎゃく【苛虐】
［名・形動］（スル）
人を手ひどく扱って、いじめ苦しめること。また、そのさま。

かぎり - の - たび【限りの旅】
《命には限度があり、どうしても行かなくてはならない旅の意から》
死んであの世へ行くこと。死出の旅。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かく - かく【赫赫】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
① 赤赤と照り輝くさま。「―たる日輪」
② 功名・声望などがりっぱで目立つさま。「―たる武勲」

かく - ごん【恪勤】
怠けずにまじめに勤めること。精勤。かくご。

かく - しゃく【赫灼】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
光り輝いて明るいさま。「―たる太陽」

かく - しゃく【矍鑠】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
年をとっても丈夫で元気のいいさま。「―たる老人」「老いてなお―としている」

隠(かく)すより現る
隠そうとすると目立って、かえって外へ知れやすい。

かく - ひつ【擱筆】
［名］(スル)
筆を置いて書くことをやめること。文章を書きおえること。「連載小説は今回をもって―することとする」⇔起筆。

か - けい【佳景】
よい景色。よい眺め。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

か - こう【仮構】
［名］（スル）
実際にはないことを存在するものとして仮に作り設けること。想像によってつくり出すこと。また、そのもの。虚構。「―の世界」

か - し【華侈】
派手で、ぜいたくなこと。「―の限りを尽くす」

かし - こ・す【貸（し）越す】
［動サ五（四）］
一定の限度以上に貸す。「預金残高以上を―・す」

か - しゃく【仮借】
［名］（スル）
許すこと。見逃すこと。「―なく罰する」

か - じょ【加除】
［名］（スル）
加えることと除くこと。「条文を―する」「―訂正」

霞(かすみ)を食・う
《仙人は霞を食って生きているといわれるところから》
浮世離れして、収入もなしに暮らすことのたとえ。

か - せい【苛政】
厳しすぎる政治。また、そういう政治のやり方。酷政。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

か - せつ【架設】
［名］（スル）
橋や電線などを一方から他方へかけ渡すこと。「電話線を―する」

かぜ - だのみ【風頼み】
選挙において、積極的な活動を行わず、その時の風潮によって動く浮動票をあてにすること。「―の政党」

かぜ - みまい【風見舞（い）】
暴風のあと、知人などの安否や被害などを尋ね、被災者を慰めること。

か - たい【化体】
［名］（スル）
観念的な事柄を、具体的な形のあるもので表すこと。特に、権利を有価証券の形で表すことをいう。「証券に―されている債権」

形（かたち）に影の添う如（ごと）し
ものにはいつも影がついているように、常に離れずにいる。形影相伴う。

かたて - うち【片手打ち】
［名・形動ナリ］
刀を片手で持って切りつけること。片手切り。片手なぐり。

かっ - しょう【滑翔】
［名］（スル）
鳥が羽ばたきを止めて、空を滑るように飛ぶこと。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かっ‐ぱ【喝破】
［名］（スル）
① 大声でしかりつけること。
② 誤った説を排し、真実を説き明かすこと。物事の本質を明言すること。

渇(かつ)に臨(のぞ)みて井(い)を穿(うが)つ
《「説苑」奉使の「飢えて黍稷(しょしょく)を求め、渇して井を穿つ」から》
必要に迫られてから慌てて準備をしても間に合わないことのたとえ。

勝(か)つは己(おのれ)に克(か)つより大なるはなし
勝つことで、最もたいへんなのは、おのれの気持ちに勝つことである。プラトンの言葉。

勝(か)てば官軍負ければ賊軍
戦いに勝ったほうが正義になり、負けたほうが不義となる。
道理はどうあれ強い者が正義者となるというたとえ。

鼎(かなえ)の軽重(けいちょう)を問・う
《楚の荘王が、周を軽んじ、周室に伝わる宝器である九鼎(きゅうてい)の大小・軽重を問うたという「春秋左伝」宣公三年の故事から》
統治者を軽んじ、これを滅ぼして天下を取ろうとする。権威ある人の能力・力量を疑い、その地位から落とそうとする。「会長として―・われる」

鼎(かなえ)の沸(わ)くが如(ごと)し
《左思「蜀都賦」注から》
鼎の中の湯が沸き返るように、物事が混乱して騒がしいさま。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

金轡(かなぐつわ)を嵌(は)・める
賄賂(わいろ)を贈って口止めをする。

蟹(かに)は甲羅(こうら)に似せて穴を掘る
《カニは自分の大きさに合わせて穴を掘るところから》
人はその身分や力量にふさわしい言動をしたり、望みを持ったりするということのたとえ。

科(か)に盈(み)ちて後(のち)進(すす)む
《「孟子」離婁下から。「科」はくぼんだ所の意》
水が流れるとき、くぼんだ所があると、まずそこにたまってから先へ流れていく。
学問も、一歩一歩順を追って進むべきことをいう。

金(かね)が唸(うな)・る
ありあまるほど多く金銭を持っている。

金(かね)が子(こ)を生(う)・む
金銭が利子がついてだんだん殖えていく。

金(かね)の轡(くつわ)を食(は)ま・す
金銭を与えて口止めする。「―・して反対意見をつぶす」

金(かね)は湧(わ)き物
金銭は思いがけなく手に入ることがあるから、なくてもくよくよすることはない。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

蚊(か)の食う程にも思わぬ
少しも苦痛を感じない。少しも困ったりしない。

か - はく【仮泊】
［名］(スル)
艦船が一時的に停泊すること。「台風を避けて港内に―する」

禍福(かふく)は糾(あざな)える縄の如(ごと)し
《「史記」南越伝から》
幸福と不幸は、より合わせた縄のように交互にやってくるということ。吉凶は糾える縄の如し。

剃刀(かみそり)の刃(は)を渡(わた)・る
失敗したら身を滅ぼすような、非常に危険な行動をすることのたとえ。

から - いり【乾煎り】
［名］(スル)
水や油を加えないで材料を煎ること。「ごまめを―する」

から - しゅっちょう【空出張】
実際には出張しないにもかかわらず、その手続きをして旅費・手当などをもらうこと。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

烏(からす)の頭(かしら)が白くなる
《人質になっている燕の太子丹に、秦王が烏の頭が白くなり、馬に角が生えたら帰国を許すと言ったという「史記」刺客伝賛注の故事から》
ありえないことのたとえ。

烏(からす)の髪
黒くてつやのある髪。

烏(からす)を鵜(う)に使(つか)う
無能な人を、能力を必要とする地位に据えることのたとえ。

から - だき【空焚き】
［名］(スル)
水を入れないで鍋や釜を火にかけたり風呂をたいたりすること。

から - み【空身】
物を何も携えないこと。荷物や連れのないこと。「―で旅に出る」

かん - かん【閑閑】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
もの静かに落ち着いているさま。「悠々―と日を送る」

かん - がん【汗顔】
［名・形動］
顔に汗をかくほど恥ずかしく感じること。また、そのさま。赤面。「―の至り」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かん - きゅう【官給】
［名］（スル）
政府が金品を支給すること。また、そのもの。「―品」

かん - ぎん【閑吟】
［名］（スル）
静かに詩歌などを口ずさむこと。「山中で独り―する」

かん - こう【寛厚】
［名・形動］
心が広く、態度が温厚なこと。また、そのさま。「―な人柄」

かん - さい【艦載】
［名］（スル）
軍艦にのせること。「戦闘機を―する」

かん - さく【奸策】
人を陥れるためのはかりごと。わるだくみ。奸計。「―を弄（ろう）する」

かん - さつ【閑殺】
［名］（スル）
人の気持ちを暗くし、活気を失わせること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

かん - じゃく【閑寂】
［名・形動］
もの静かで趣のあること。ひっそりとして落ち着いていること。また、そのさま。かんせき。「―な郊外の住宅街」

かん - すい【灌水】
［名］（スル）
水を注ぐこと。多く、草木や農作物に水を注ぎかけることにいう。「苗床に―する」「―浴」

かん - せい【陥穽】
① 動物などを落ち込ませる、おとしあな。「―にはまる」
② 人をおとしいれる策略。わな。「詐欺師の仕掛けた―に陥る」

かん - せい【官製】
政府が作ること。また、そのもの。「―の団体」⇔私製。

ん - せつ【冠雪】
［名］（スル）
かぶさるように降り積もった雪。また、雪がそのように積もること。

かん - せつ【乾雪】
水分が少なく、さらさらとして軽い雪。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

甘草(かんぞう)の丸呑(まるの)み
《甘草もよくかみしめてみなくては、甘さがわからないところから》
物事の本当の意味を深くかみしめてわかろうとしないこと。

かん - たい【歓待】
［名］(スル)
手厚くもてなすこと。「―を受ける」「使節団を―する」

かん - ち【奸知】
悪賢い知恵。悪知恵。「―にたける」

かん - なん【艱難】
［名・形動］(スル)
困難に出あって苦しみ悩むこと。また、そのさま。「―をしのぐ」

かん - ばつ【間伐】
［名］(スル)
森林や果樹園で、主な木の生育を助けたり、採光をよくしたりするために、適当な間隔で木を伐採すること。透かし伐(ぎ)り。

かん - び【完美】
［名・形動］(スル)
完全で美しいこと。また、そのさま。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

おわりに

【あいさつ】

語彙辞典を読んでくださり、ありがとうございました。

当レポートを制作したショウヘイと申します。

私は旅する作家という生き方を理想としています。日本や世界の各地を渡り歩くことで、作家としての引き出し（人生経験）を増やし、より良質な物語を世に送り出し続ける……そんな自由な作家生活です。

また、個人で稼ぐ能力を身に付けることで、会社に時間と場所を縛られない人生の実現も目指します。個人で安定した収入を得られれば、出版社の編集者の言いなりにならずに、自分が心から好きな物語を創作できるようにもなるからです。

私が運営しているブログ【ノマドクリエイターの執務室】では、旅する作家になるために役立つ情報を発信しています。もちろん、小説家・ラノベ作家として活躍するために役立つ創作論も公開しています。

時間と場所に縛られない、新しい作家の生き方に興味がありましたら、ぜひブログを覗いてみてください。

↓　↓　↓

■ ブログ：ノマドクリエイターの執務室（https://ノマドクリエイター.net）

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.